過去の災害状況

西暦	年月日	種類	気象状況等	被害状況
1695	元禄8年	暴風雨		
1702	元禄15年	大雨	九頭竜川が氾濫し、堤防の決壊、田畑家屋流出。長渕一帯が浸水。	
1715	正徳 5年	大火	後町より出火。	寺院3、町屋120軒消失
1721	享保 6年	大雨	九頭竜川氾濫	
1725	享保10年	大雪		
1726	享保11年2月29日	土石流	女神川上流が融雪により山腹崩壊。土石流が猪野口村を襲った。	53軒中48軒流出または埋没、死者82人
1726	享保11年	大雪	積雪約7m(二丈三尺)	
1746	延享 3年	大火	郡町から出火、袋田町、後町、武家屋敷に延焼。	全町630軒中458軒焼失
1781	安永10年	大火		民家568軒、武家89軒消失。死者5人
1791	寛政3年	暴風雨		
1796	寛政8年	大雨	浄土寺川氾濫。下流一帯が被害を受け袋田町、長渕町浸水。	
1799	寛政11年	大火		郡町128軒、後町155軒、11ケ寺焼失
1804	亨和4年	大火	後町	29軒
1821	文政4年	大火	立石町中心	473軒
1822	文政5年	大火	勝山城	
1833	天保4年	大雪		
1833	天保4年	飢饉	冷害	
1834	天保5年	飢饉	干害、台風	
1835	天保6年	飢饉	大雪	
1836	天保7年	飢饉	洪水、氾濫、冷害、大雪	
1837	天保8年	飢饉	餓死800人	
1842	天保13年	大火	長渕大火	後町7軒、長渕町81軒消失、滝波村85軒類焼
1842	天保13年	洪水	下河原浸水	
1854	嘉永7年	地震		
1858	安政5年	地震		
1893	明治26年1月	大火		15棟全焼
1896	明治29年4月13日	大火	(勝山大火)立石町より出火。郡、袋田、上・中・下後、沢、富田、長渕全焼、滝波76戸、新保25戸焼失。	町屋1,200軒、寺18ケ寺消失(全戸数の80%、死者5名、負傷者32名
1898	明治31年4月16日	大火	鹿谷村保田	全焼63戸
1904	明治37年8月21日	大火	遅羽村大袋	27棟焼失
1914	大正3年7月25日	大火	鹿谷村本郷	全焼22戸
1919	大正8年5月26日	大火	鹿谷村保田	民家60戸
1933	昭和8年7月25日、26日	火災		成器女子校、町役場消失、翌日尊光寺も焼失
1935	昭和10年9月23日	大火	勝山町上元禄	工場7棟
1937	昭和12年	大雨		勝山橋の木橋の一部が流失
1938	昭和13年5月15日	大火	野向村竜谷	民家26戸
1947	昭和22年4月6日	大火	村岡村寺尾	民家10戸
1948	昭和23年12月31日	大火	鹿谷村矢戸口	民家13戸
1948	昭和23年7月24日～25日	豪雨	集中豪雨 九頭竜川の右岸堤防決壊。川原町一帯床上浸水50戸、床下浸水380戸、死者1名。 大渡、妙金島、森川地籍の九頭竜川堤防も決壊し、流失家屋や浸水家屋、田畑の冠水や流出。	
1950	昭和25年8月20日	大火	平泉寺村平泉寺	全焼19棟、半焼4棟
1951	昭和26年8月20日	大火	北郷村東野	民家25戸

西暦	年月日	種類	気象状況等	被害状況
1959	昭和34年8月	台風	台風7号 荒鹿橋流出	人的被害　0人 建物被害　4,211千円 流失　6戸 床上浸水　61戸 床下浸水　326戸 公共土木被害　134,270千円 農林関係被害　32,808千円 教育施設被害　190千円 合計　171,499千円
1959	昭和34年9月26日～27日	台風	伊勢湾台風(台風15号) 明治29年以来65年ぶりの大洪水本市に初の災害救助法を発動。 市水害対策本部設置。被害の大きかったところは、妙金島、西高島、弁天、比島、坂東島など。特に妙金島は堤防が決壊し、2日間孤立状態に置かれ、田畑22haも全部流出。 西高島の県・市営住宅は、1棟を残し18戸が流出。	人的被害　死者2名 建物被害　23,294千円 流失　22戸 半壊　11戸 床上浸水　180戸 床下浸水　173戸 土木被害　41,275,894千円 農業被害　67,113千円 公共施設被害　6,645千円 工業関係被害　10,000千円 合計　41,382,945千円
1960	昭和35年8月10日～13日	台風	台風11号 荒鹿橋流出。 水田冠水-比島5ha、鹿谷町2ha、荒土町3ha 避難命令-勝山駅前26戸、金島25戸	
1960	昭和35年8月29日～30日	大雨	若猪野地係九頭竜川右岸旧堤防40m決壊、坂東島右岸堤防50m損壊、九頭竜川115m決壊、妙金島19戸浸水、千代田4戸床下浸水、薬師神谷仮橋14m中央部流失、荒鹿橋仮橋流失(5回目)、比島電車路線2.5m流失、下荒井国道157号線付近の九頭竜川左岸幅　2m、長さ100mの石積みが崩れる。	
1961	昭和36年6月	大雨	水田冠水21ha、畑冠水82ha、道路損壊1ヵ所、橋流出1ヵ所、山崩れ3ヵ所。	
1961	昭和36年9月14日～16日	台風	第2室戸台風 国道157号線土砂崩れ、負傷者2名、建物全壊3戸、半壊11戸、床上浸水94戸、床下浸水132戸、一部破損113戸、非住家被害35戸、水田冠水61ha、畑冠水6ha、道路破損16ヶ所、端流出21ヶ所、堤防8ヶ所、山崩れ12ヶ所、鉄道破損2ヶ所、通信施設306ヶ所、材木流出150石、罹災世帯108戸	損害2億円 人的被害 負傷者　2人 建物被害 全壊　3戸 半壊　11戸 床上浸水　94戸 床下浸水　132戸 一部破損　113戸 非住家被害　35戸
1963	昭和38年1月中旬～2月中旬	豪雪	38豪雪 1月中旬、異常に発達した低気圧が日本海で停滞し、2月始めにかけて大雪が連続し100年来の大雪となった。 また、野向町横倉では1月24日に表層雪崩が発生し、4家族16人が死亡した。 自衛隊出動。	人的被害 死者　16人 負傷者　2人 建物の被害　85,578千円 全壊　42棟 半壊　9棟 一部破損　6,000棟 床上浸水　185棟 床下浸水　1,050棟 公共施設被害　21,758千円 農林関係被害　228,470千円 商工関係被害　555,381千円 合計　1,055,050千円
1965	昭和40年9月10日 9月14日～15日	風水害	40.9三大風水害 (台風23号、奥越豪雨、台風24号)9月10日に高知県に上陸した台風10号は若狭湾に抜けたため、被害が発生した。 この応急普及に努めていたところ前線が活発となり集中豪雨をもたらし九頭竜川等が決壊し、大被害が発生した。 市災害対策本部設置。 北六呂師で、山崩れが発生し3戸が全壊、4人死亡、負傷者4人。 千代田で九頭竜川堤防が決壊し、家屋10戸流出、工場半壊。市内中小河川は各所で氾濫、橋が流出し堤防が随所で決壊、道路は各所で流された。下荒井橋流出。北新橋一部流出、交通途絶。　自衛隊員103名出動。	人的被害 死者　6人 負傷者　6人 建物の被害　95,259千円 全壊　25棟 流出　21棟 半壊　41棟 一部破損　112棟 床上浸水　182棟 床下浸水　1,325棟 公共土木関係　1,014,414千円 農林関係　370,162千円 その他の被害　388,816千円 合計　1,868,651千円

西暦	年月日	種類	気象状況等	被害状況
1969	昭和44年8月8日～8月11日	大雨	前線が北陸地方から関東地方にかけて停滞し、このため局地的な大雨となった。 淀川、皿川氾濫 崖崩れ6ヵ所(薬師、中尾、小原3、谷)	建物の被害　544千円 床上浸水　35棟 床下浸水　194棟 公共土木関係　221,313千円 その他の被害　634千円 合計　244,234千円
1970	昭和45年6月25日～	大雨	発達した日本海低気圧の通過に伴い梅雨前線の活動が活発となり大雨となった。	公共土木関　232,360千円 その他の被害　1,566千円 合計　233,926千円
1972	昭和47年7月	大雨		道路7ヶ所　7,760千円 河川32ヵ所　314,500千円 砂防7ヵ所　10,000千円 市道4ヵ所　3,898千円
1975	昭和50年8月23日	台風	台風6号が大阪湾上陸、若狭湾にむけたため、大雨となり、被害が発生した。	公共土木関係　181,605千円 その他の被害　11,710千円 合計　193,315千円
1976	昭和51年9月9日	台風	台風17号が九州南西沖に停滞したため、前線の活動が活性化し大雨をもたらした。	農林関係　64,850千円 その他の被害　21,078千円 合計　85,928千円
1977	昭和52年1月1日～	豪雪	52豪雪 昭和52年1月初めから3月にかけて繰り返し強い寒波に見舞われ記録的な長期間の降積雪となった。	建物の被害　4,170千円 全壊　4棟 一部破損　1棟 床上浸水　6棟 床下浸水　21棟 その他の被害　855,618千円 合計　859,788千円
1980	昭和55年12月～56年3月	豪雪	56豪雪 12月27日から1月中旬にかけて4,5日から1週間程度の大雪が3回にわたって繰り返し降り、1日降雪量が100cmを超えるなど、記録的な豪雪となり大被害が発生した。 12月29日に雪害対策本部設置。 1月17日に異常豪雪対策本部に切り替え。3月24日廃止。 自衛隊員227人出動。 京福電車39日間不通。	人的被害 死者　1人 負傷者　7人 建物の被害　575,983千円 全壊　42棟 半壊　16棟 一部破損　291棟 床上浸水　60棟 床下浸水　199棟 農林水産関係　2,075,405千円 商工業関係　2,850,471千円 教育施設関係　65,686千円 公共土木関係　574,350千円 その他の被害　396,601千円 合計　6,538,496千円
1981	昭和56年7月2日～7月3日	豪雨	1日から4日にかけて梅雨前線が停滞したために1日夜から3日にかけて雨が強く降り大被害をもたらした。 堤防決壊8ヵ所、河川氾濫4ヵ所、家屋損壊2戸。 大蓮寺川増水しケーテー本社前溢水、見谷川溢水、為田川溢水。	人的被害 負傷者　2人 建物の被害　29,770千円 全壊　1棟 半壊　1棟 一部破損　2棟 床上浸水　86棟 床下浸水　214棟 公共土木関係　3,031,000千円 農林水産関係　391,610千円 その他の被害　30,900千円
1984	昭和59年1月～3月	豪雪	59豪雪 1月中旬から2月上旬にかけて大雪となり、被害が発生した。 1月17日雪害対策室設置。2月8日雪害対策本部に切り替え。 3月21日廃止。	人的被害 死者　1人 負傷者　11人 建物の被害　10,950千円 農林関係　442,219千円 その他の被害　328,488千円 合計　781,657千円
1986	昭和61年5月3日	大雨	国道157号線谷トンネル付近で土石流発生。	人的被害 死者　1人
1998	平成10年8月7日	大雨	日本海から全線が南下、前線に向かい暖湿気流が入り、嶺北山沿いを中心に大雨。 浄土寺川、大蓮寺川等が溢れるなど被害が発生した。 6日13時から7日13時までの24時間降水量は勝山118mm。	建物の被害 床上浸水　8棟 床下浸水　111棟 公共土木関係　2,022,300千円 その他の被害　6,490千円
1998	平成10年8月14日	大雨	朝鮮半島南部から日本海沿岸を東西に延びた前線上を低気圧が通り暖湿気流が入り、前線活動が活発化。	建物の被害 床下浸水　14棟 公共土木関係　29,000千円
1998	平成10年9月22日	台風	台風7号が、和歌山県御坊市付近に上陸。近畿地方を通り福井県東部を通過し、富山湾に進んだ。 強風による家屋の損壊、樹木の倒木等が発生。	建物の被害 全壊　7棟 一部破損　16棟 軽微な破損　44棟 農業関係　22,000千円

西暦	年月日	種類	気象状況等	被害状況
2001	平成13年1月	大雪	1月中旬にまとまった雪が降り、最大積雪深は120cm記録。 屋根雪下ろし中の転落により死者が出た。また、雪道での転倒等により負傷者が出た。	人的被害 死亡　1人 重傷　2人 軽傷　5人
2002	平成14年7月11日	台風	台風6号の接近からの大雨により地盤が緩み、滝波川右岸の木根橋地係で地すべりが発生。滝波川で土石流が起こる危険性が高まった。勝山土木事務所、奥越農林総合事務所による応急措置。 7月12日に地すべり対策室を設置。7月24日に廃止。	14集落へ、土石流に対する注意の呼びかけを行った。 避難勧告等の発令には至らなかった。
2004	平成16年2月7日	遭難	大長山で2月3日から入山していた関西学院大学のワンダーフォーゲル部員14名が自力で下山ができなくなった。 天候の回復を待ち、県防災ヘリ、自衛隊ヘリにより、9日に全員を救助。 2月7日に遭難救助対策本部を設置。2月9日に廃止。	遭難者14人を全員救助。
2004	平成16年7月18日	豪雨	平成16年7月福井豪雨 7月18日未明から嶺北地方、岐阜県で強い雨が断続的に降り、18日の明け方には非常に激しい雨となった。18日の雨量は146mmを観測。(福井地方気象台観測) 0時から9時までの短時間に激しい降雨が観測された。 勝山市においても道路、農地等に被害が発生した。	公共土木関係　28,000千円 農業関係　70,990千円 合計　98,990千円
2005	平成17年7月4日	大雨	7月3日夕方から4日にかけ、西日本に停滞していた梅雨前線がゆっくり北上し、その活動が活発になり奥越を中心に雨が降り続いた。 3日18時から4日11時までの総雨量173mmを観測(福井地方気象台観測)。また、4日3時から6時まで連続で1時間に20mmを超える激しい雨を観測した。水路の溢水、道路、農地等に被害が発生。	建物の被害 床下浸水　9棟 公共土木関係　30,000千円 農林関係　49,781千円 合計　79,781千円

西暦	年月日	種類	気象状況等	被害状況
2005～ 2006	平成17年12月～ 平成18年2月	豪雪	平成18年豪雪 平成17年12月4日の初雪以来、雪が断続的に降り続き、14日には積雪が120cmを超えた。雪下ろし、除雪中の死亡や負傷が相次ぎ、空き工場等の倒壊が発生した。 12月14日に雪害対策室を設置。 2月23日に廃止。 最大積雪深は182cmを観測。 (観測点:勝山市消防本部) 1月8日国土交通大臣、2月6日参議院災害対策特別委員会が災害視察。 ※被害の概要とその対応については、次頁からの「豪雪の経過」を参照。 　その他詳細な資料は雪害対策室発行の記録誌「平成18年豪雪」に掲載。	人的被害 　死亡　5人 　負傷者　9人 建物の被害 　全壊　7棟 　半壊　4棟 　一部損壊　328棟 公共施設関係　174,589千円 農林水産関係　98,811千円 商工業関係　8,119千円 その他の被害　575,012千円 合計　856,531千円 ※災害救助法の適用を受け、死亡者の遺族に対し災害弔慰金が支給された。
2006	平成18年7月17日 ～7月22日	豪雨	7月15日から24日にかけて、九州から本州付近にのびた梅雨前線の活動が活発となり、水路の溢水、道路、農地等に被害が発生した。 7月17日に災害対策情報連絡室を設置。7月22日に廃止。 7月15日の降り始めからの総雨量は531mmを観測。(福井地方気象台観測)	公共土木関係　36,400千円 農林関係　59,320千円 合計　95,720千円
2007	平成19年6月22日	大雨	活動が活発な梅雨前線が日本海から南下し、福井県では山陰沿岸から発達した雨雲が流入したため、嶺北地方を中心に大雨となった。 22日夕方以降、1時間雨量20ミリを超える強い雨が嶺北地方に降り始め、23日夜遅く嶺北地方を中心に短時間に非常に激しい雨となった。 奥越土木事務所勝山分庁舎観測所では22日18時台に26mm/時、23時台に31mm/時を記録し24時間雨量は130mmに達した。	農林関係　6,149千円

西暦	年月日	種類	気象状況等	被害状況
2007	平成19年6月29日 ～30日	大雨	黄海から日本海へ伸びた梅雨前線の活動が活発になり、北陸地方にゆっくり南下したことにより、福井県内で13時頃から16時頃にかけて1時間10㎜を超える雨が降り続き、勝山市周辺は18時頃に1時間30㎜を超える激しい雨となった。	公共土木関係　36,400千円 農林関係　59,320千円 合計　95,720千円
2008	平成20年6月28日 ～29日	大雨	発達した日本海低気圧の通過に伴い梅雨前線の活動が活発となり大雨となった。	農林関係　2,500千円
2008	平成20年7月8日	大雨	北陸地方の上空には寒気を伴った気圧の谷があって大気の状態が非常に不安定となり、福井県内で午前7時頃から9時頃の間に1時間に20㎜～30㎜の強い雨が降り、勝山市内でも奥越土木事務所勝山分庁舎観測点で1時間44㎜を観測する激しい雨となった。	建物の被害 床下浸水　2棟 農林関係　1,000千円
2008	平成20年8月28日	大雨	北海道から本州付近にかけて前線が停滞。この前線に向かって南から非常に湿った空気が流れ込み、各地で大雨となった。奥越地域に大雨、洪水警報は発表され、勝山市内では奥越土木事務所勝山分庁舎観測点で総雨量51㎜、1時間当たり雨量は28㎜(16～17時)、平泉寺岡横江(気象台観測点)で総雨量98㎜、1時間当たり雨量は55㎜(16～17時)を観測。平泉寺方面で短時間に強い雨が降った。 市内でも、短時間に水量が増し、河川、水路が数箇所で溢れた。	農林関係　2,000千円
2009	平成21年1月15日	遭難	北谷　谷峠胡麻堂(ゴマンド)谷川付近で1月14日より山スキーのため入山していた男性1人が自力で下山ができなくなった。 県警ヘリが遭難者を確認し、山岳救助隊及び石川県防災ヘリが救助。	遭難者1人を救助。
2009	平成21年6月22日	大雨	活動が活発な梅雨前線が日本海から南下し、福井県では山陰沿岸から発達した雨雲が流入したため、嶺北地方を中心に大雨となった。22日夕方以降、1時間雨量20ミリを超える強い雨が嶺北地方に降り始め、23日夜遅く嶺北地方を中心に短時間に非常に激しい雨となった。 奥越土木事務所勝山分庁舎観測点では22日18時台に26㎜/時、23時台に31㎜/時を記録し24時間雨量は130㎜に達した。	建物の被害 床下浸水　1棟

西暦	年月日	種類	気象状況等	被害状況
2009	平成21年10月8日	台風	10月7日夜、非常に強い台風18号が四国の南海上を北上し、8日5時頃には愛知県知多半島付近に上陸した。この台風の北上により福井県内では8日未明以降風や雨が強まり、夕方には弱まった。福井県内への最接近は6時頃と考えられる。 台風の周辺には発達した雨雲が広がり、中央付近には最大風速40メートルの暴風を観測している。 福井県内では嶺南西部を中心に1時間雨量30ミリを超える激しい雨が降り、沿岸地方を中心に15メートルを超える北よりのと良い雨を観測した。	建物被害 非住家被害　1棟
2009	平成21年12月～ 平成22年3月	大雪	1月12日よりまとまった雪が降り、最大積雪深は150cmを記録。雪下ろし中の転落により死者や負傷者が出た。	人的被害 死亡　1人 負傷者　6人 建物の被害 一部破損　2棟 床下浸水　2棟 非住家被害　1棟
2010	平成22年3月21日	強風	福井県地方は発達した低気圧から伸びる寒冷前線が県内を通過した影響で、21日は県内全域で強風が吹いた。勝山市内では平泉寺岡横江(気象台観測点)では21日午前2時に西北西の風最大瞬間風速24.6メートルを記録。	建物被害 非住家被害　1棟
2010	平成22年12月3日	強風	12月2日16時55分に福井県全域で雷・強風注意報が発令され、3日4時50分には竜巻等の激しい突風に対する警戒についての情報が発表された。勝山市内では平泉寺岡横江(気象台観測点)では3日13時40分に西南西の風最大瞬間風速19.9メートル、22時00分に北西の風21.8メートルを記録した。	建物の被害 一部破損　1棟 非住家被害　2棟
2010 ～2011	平成22年12月～ 平成23年3月	大雪	平成22年豪雪 1月中旬より雪が断続的に降り続き、1月17日には積雪が115cmを超えた。雪下ろし、除雪中の死亡や負傷が相次ぎ、空き工場等の倒壊が発生した。 1月29日に雪害対策室を設置。 2月17日に廃止。 最大積雪深は210cmを観測。 (観測点:勝山市消防本部)	
2011	平成23年5月10日	大雨	5月10日6時頃降り始めた雨は、12時頃から時間雨量15ミリを超える非常に激しい雨となった。24時間雨量は100mmに達した。	農林関係　1,000千円
2011	平成23年7月7日	大雨	北海道から本州付近にかけて前線が停滞。この前線に向かって南から非常に湿った空気が流れ込み、各地で大雨となった。奥越地域に大雨、洪水警報は発表され、勝山市内では平泉寺岡横江(気象台観測点)で総雨量150mm、1時間当たり雨量は28mm(21～22時)を観測。市内でも、水量が増し、河川、水路が数箇所で溢れた。	建物の被害 床下浸水　1棟 公共土木関係　2,581千円 農林関係　9,952千円 合計　12,533千円
2011	平成23年8月17～ 8月19日	大雨	8月17日夕方から降り始めた雨は、19日早朝まで強弱を繰り返しながら降り続き、勝山市内では平泉寺岡横江(気象台観測点)で3日間の総雨量144mm、1時間当たり最大雨量は33mm(19日6～7時)を観測。	農林関係　1,499千円
2011 ～2012	平成23年12月～ 平成24年3月	大雪	平成23年豪雪 12月24日に降り始めた雪は、その後1か月程度は小康状態であったが、1月24日より断続的に雪が降り続き、1月26日には積雪が110cmを超えた。雪下ろし、除雪中の死亡や負傷が相次ぎ、家屋の破損が多数発生した。 1月27日に雪害対策室を設置。 2月17日に廃止。 最大積雪深は145cmを観測。 (観測点:勝山市消防本部)	人的被害 死亡　2人 負傷者　9人 建物の被害 一部破損　25棟 非住家被害　1棟

西暦	年月日	種類	気象状況等	被害状況
2012	平成24年4月3日	暴風	4月2日9時に華北で発生した低気圧は、3日に急速に発達しながら日本海を東北東に進んだ。低気圧の中心気圧は2日21時の1006hPaから3日21時の964hPaへと、24時間で42hPa降下し、またこの低気圧からのびる寒冷前線が西日本から北日本を通過した。このため西日本から北日本の広い範囲で記録的な暴風となった。	建物の被害 一部破損　　1棟
2012	平成24年7月21日	大雨	太平洋高気圧の縁を回って暖かく湿った空気が流れ込み、オホーツク海高気圧と太平洋高気圧に挟まれた鞍部に集まって流れ込んできた。上空には寒気があり、大気の状態が非常に不安定になったことから各地で大雨が降った。 7月21日未明より降り始めた雨は、次第に強まり勝山市内では奥越土木事務所勝山分庁舎観測点(気象台観測点)で24時間雨量144mm、1時間当たり雨量は35mm(7～8時)を観測。	農林関係　　1,500千円
2013	平成25年7月29日～7月30日	大雨	日本海から東北地方付近にのびる梅雨前線と、本州に沿って西から流れ込む暖かく湿った空気や上空の寒気の影響で、広い範囲で大気の状態が不安定となり、九州から北海道にかけて局地的に非常に激しい雨が降った。 7月29日未明より降り始めた雨は、断続的に降り続き勝山市内では平泉寺岡横江(気象台観測点)で観測履歴1位となる24時間雨量175mmを観測した。1時間当たり雨量は20mm(29日11～12時)を観測。	農林関係　　15,950千円
2013	平成25年9月16日	特別警報	9月13日3時に小笠原の近海で発生した台風第18号は、日本の南海上を北西に進みながら14日9時に大型となり、15日夕方には四国の南海上に達した。その後、台風は進路を北東に変え、近畿地方や東海地方を暴風域に巻き込みながら東海道沖を北東に進み、16日8時前に愛知県豊橋市付近に上陸した。この台風は上陸後も勢力を維持したまま北上し、暴風域を伴って関東甲信地方を北東に進んだ後、東北地方南部を経て16日18時には三陸沖に達した。台風の影響で15日未明から雨となり、小浜、大飯では15日の降水量が9月の極値第1位を更新した。台風が北陸地方に最も接近、通過した16日未明から明け方にかけては、嶺南を中心に激しい雨が降り、16日には再び日降水量が9月の極値第1位を更新した。	

西暦	年月日	種類	気象状況等	被害状況
2014	平成26年7月19日～ 7月20日	大雨	7月19日から20日にかけて、上空に強い寒気を伴った低気圧が、日本海を南東に進み、20日9時には能登半島付近まで進んだ。 19日の夜遅くから20日未明にかけて、断続的に降り続き勝山市内では平泉寺岡横江(気象台観測点)で24時間雨量71mmを観測した。1時間当たり雨量は23.5mm(20日3～4時)を観測。	農林関係　16,864千円
2016	平成28年9月20日～ 9月21日	大雨	福井県では、台風による暖かく湿った空気の影響で大気の状態が非常に不安定となった。 雨量は福井県浄土寺川ダムで9月17日15時～9月20日20時まで雨量196ミリ、9月20日20時までの24時間雨量89ミリを記録した。 当市では9月20日3時22分、避難準備情報を発令し、市内の指定避難所4施設に合計6名の住民が避難した。	建物の被害 土砂による一部破損、床上浸水 1棟2世帯 土砂による一部破損、床下浸水 1棟1世帯
2018	平成30年2月	豪雪	2月4日から5日にかけて、北陸地方の上空約5,000メートル付近には、氷点下33度以下の強い寒気が流れ込み、6日から8日にかけては、氷点下39度以下のさらに強い寒気が流れ込み、日本付近は強い冬型の気圧配置となった。 勝山市では、2月5日に積雪が100cmを超え、「勝山市雪害対策室」を設置し、2月7日に、昭和59年の大雪以来、実に34年ぶりとなる「勝山市雪害対策本部」に切り替えた。2月8日には市街地（観測地点：勝山市消防本部）における最大積雪量は204cmとなった。	人的被害 死亡　2人 負傷者　11人 建物の被害　174棟 非住家被害　10棟
2021	令和3年1月	豪雪	1月7日は低気圧が日本海を急速に発達しながら東北東に進み、その後10日にかけ北陸地方の上空約1,500メートルに氷点下12度以下の寒気が流れ込み、強い冬型の気圧配置となった。 勝山市では、1月8日に積雪が100cmを超え、「勝山市雪害対策室」を設置し、1月9日には150cmを超え、「雪害対策本部」に切り替えた。1月10日には市街地（観測地点：勝山市消防本部）で平成30年福井豪雪を超える最大積雪深225cmを観測した。	人的被害 死亡　1人 重傷者　1人 軽傷者　5人 物的被害（住家） 一部損壊　1棟 床上浸水　2棟 床下浸水　9棟 物的被害（非住家） 損壊　3棟 物的被害（農業用ﾊﾟｲﾌﾟﾊｳｽ） 損壊　59棟
2022	令和4年8月4日～ 8月5日	大雨	8月4日から5日は、日本海から北陸地方を通って日本の東にのびる前線がゆっくり南下し、日本の南に中心を持つ高気圧の縁をまわる暖かく湿った空気が前線に向かって流れ込んだ影響や、上空の寒気の影響で大気の状態が不安定となり、福井県では、4 日昼前には奥越で猛烈な雨が降 り、激しい雨が同じ場所で降り続いたことから「線状降水帯」が発生した。また、5 日明け方から朝にかけて嶺北南部や嶺南東部に次々と発達した積乱雲が流れ込み、断続的に猛烈な雨が降り記録的な大雨を観測した。 勝山市内では8月4日19時現在、平泉寺岡横江(気象台観測点)で24時間雨量178mmを観測した。1時間当たり雨量は北谷町谷（国観測点）で85mm(4日9～10時)を観測。	物的被害（住家） 床上浸水　17棟 床下浸水　48棟 物的被害（非住家） 損壊　59棟 公共土木関係　739,000千円 農林水産関係　781,000千円 上下水道関係　50,000千円 合計　1,570,000千円

西暦	年月日	種類	気象状況等	被害状況
2023	令和5年7月13日	大雨	日本海にのびる梅雨前線が、12日から13 日にかけて北陸地方をゆっくり南下し、福井県付近に停滞した。この前線に向かって太平洋高気圧の縁を回って暖かく湿った空気が流入した。また、北陸地方の上空に寒気が流れ込んだ影響もあり、大気の状態が非常に不安定となった。特に13 日未明から朝にかけては嶺北や嶺南東部で雷を伴って非常に激しい雨が降った。 勝山市内では7月13日5時までの時間雨量の最大は北谷町で49㎜、平泉寺町で36㎜、7月13日7時までの24時間雨量は北谷町で197㎜、平泉寺町で132㎜を観測。	物的被害（住家） 床上浸水　1棟 床下浸水　28棟 物的被害（非住家） 損壊　13棟 公共土木関係　612,400千円 農林水産関係　495,100千円 上下水道関係　100千円 合計　1,570,000千円